

<今回>259回目 2019年6月3日(月)15時~18時 306号室

読書は10冊目「失われた九州王朝」再読 p54 帰結 から

<前回>258回目(19-5-27) 出席者 10名

資料(19-05-27-1)前回のまとめ(清水)

- 2)説文解字、委など、(大墨)
- 3)極めるの文字8か所(大墨)
- 4)金印について(富谷至著)(大墨)

A 報告 暑くなってきた。東戸塚古代史講座は締め切られたが35名募集のところ72名の応募があり、抽選で受講者が決まった。読書会では岡田氏、庄司さん、山本さん、渡辺さん当選。

B 資料 -2)大墨氏から 前回読めなかった文字について、ニコニコ大百科から紹介があった。从、委、螭虎。

-3)後漢書夷蛮伝の極の用例8ヶを紹介。挹婁 不知其北所極。倭国之極南界也。至裸国黒齒国使驛所傳極於此牟。夜郎国 西極同師。東極玉門(西域諸国)。西南至于羅国九百六十里、安息西界極牟。

-4)金印は教科書でどう扱われているか。彼の本の中で注目点。邪馬壹国に「やまたい」と仮名を振っている。1世紀当時の倭人が文字を読めているか疑問か。景初3年説、委奴国・王と委奴・国王は違うという説。奴という名前の国はないという。隋書の引用は倭奴ではなく倭奴。匈奴は匈奴から起こったという説。古田の先行研究にふれていない。

懇親会8名 津多屋11923円(2000・5+1500・3)+2577円

C 読書 p45 陳寿の目 から 交代読み

1)後漢の時の金印の授与、安帝の時の帥升の奉獻、100余国から今使訳通じるところ30か国 歳時を以て来たり献見すという。漢書の慣習的、伝聞的表現を陳寿は朝見する者有りと言った。伊都国には王はいたが代々女王国に属していた。

2)三宅説について 王は3か所、女王と伊都国王、狗奴国王。中国の歴史書には女王国、倭国の中心国に変動があったと記載はない。光武帝が金印を与えたのは中心国(委奴国)、中心国に変動があったのなら史料事実には反映されていないのは不可解だ。

3)極南界 奴国は2回でてくる。1回目は2万戸の大国。最後は名前だけの奴国、これに金印を与えたという想定はない。最後の奴国だから最も南という三宅説の極南界説はもろい。

4)范曄の真の錯覚 里単位の混乱として5例出してきている。①から④までは列伝の南蛮伝、暇頰伝で実例で長里を示している。⑤は倭人伝で三國志の数値をそのまま用いている。范曄は12000里を短里と知らずに長里として用いたので朝鮮半島南端から5000里(2255km)として海南島付近を想定した。

5)大夫の証言 夏、殷、周の古制に卿、大夫、士の階層がある。難升米、伊声耆、掖邪狗はいずれも大夫である。漢の時代は「古」ではない。陳寿は古よりと言っている。魏晋からみれば漢のような近代ではなく、夏殷周以来の聖天子の感化を受けて古来からずっと続いているのが大夫の名乗りである。范曄の国家観も代々続いた、倭奴国から邪馬壹国まで、連続した国家観である。

次回日程 19-6-21(金) 15時から18時 601号室

-7-8(月) 15時から18時 603号室

-7-26(金)15時から18時 602号室

-8-9(金) 16時から18時 601号室